

## 視能訓練士学科実習生の身だしなみにおける印象度調査

視能訓練士学科 3 年制

### 【背景・目的】

実習を振り返ったとき、患者が検査に協力的であるかどうかは第一印象が大きく影響すると感じた。

村田ら<sup>1)</sup>は「臨床実習において身だしなみは、患者との人間関係を良好にする基本的なマナーとして、学内及び実習施設で指導される必要がある。」と述べている。

外来では様々な患者が来院し、検査員もまた様々である。視能訓練士実習生は身だしなみのどの部分に意識をおくべきかを明らかにするため、我々が問題ないと考えいくつかの身だしなみパターンで検査を実施し、患者はどの項目に着目するかを調査した。

### 【対象および方法】

対象は本校に所属する学生または教職員の年齢 19～57 歳とし、平均年齢は 33.6 歳の計 30 名とした。

方法は眼科一般的検査を行った後、視能訓練士学生の身だしなみに関するアンケートを実施する。なお注意深く身だしなみを意識することを避けるため、検査前に研究内容は伝えない。

検査の流れは、1. 屈折検査（オートレフRACTメーターにて眼瞼挙上）、2. 顔に触れての瞳孔間距離測定（PD 計にて）、3. 屈折矯正（クロスシリンダー）を行う。身だしなみ例は①ケーシーのみ女性、②ケーシーのみ男性、③白衣のみ男性、④ケーシー、白衣の女性とした（図 1）。

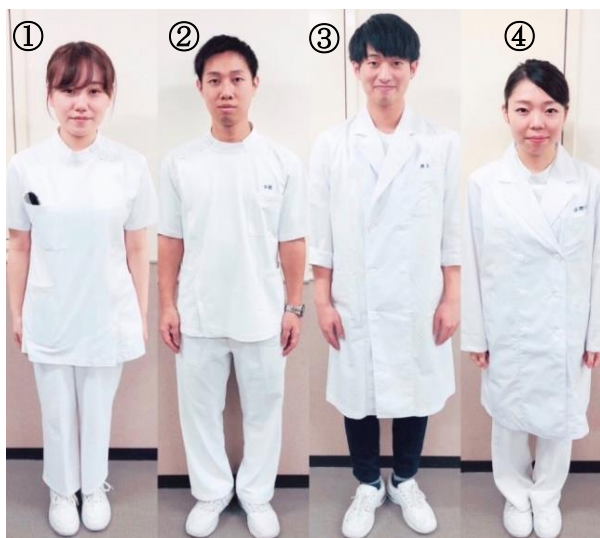


図 1. 身だしなみ例

アンケートの回答は「気になる」「気にならない」の 2 件法で選択してもらい、「気になる」に関しては自由記述の欄を設けた。項目は 1: 爪, 2: 髪型, 3: 髪色, 4: 白衣の汚れ, 5: におい, 6: インナー, 7: ひげ, 8: 化粧, 9: アクセサリー, 10 カラーコンタクトレンズとした。なお, 10 項目以外にその他の項目を設け, 自由記述ができるようにした。

### 【結果】

身だしなみにおいて「気になる」と回答した人数は 30 人中 6 人であった。また素データとして「気になる」意見は 17 票, その中でもっとも多かったのは「白衣の汚れ」, 「におい」, 「アクセサリー」がそれぞれ 4 票であった。

### 【考察】

白衣に意見が集まった理由として, 医療職の象徴であり<sup>2)</sup>信頼関係を構築するツールとしても機能しているため目につきやすいと考える。

においに関しては, 眼科的検査をするにあたり患者と距離が近いと, においを意識すると考える。

アクセサリーに関しては「アクセサリーが目の前に来ると怖い, 不必要」との意見があり, 眼科的検査は患者の顔の近くで行う検査が多く, 不必要なものを装着していると恐怖感を与えると考える。

### 【文献】

- 1) 村田伸: 臨床実習生の身だしなみに関する意識調査-学生と患者の意識の比較-. 理学療法学. 26 (1), 1999, 123.
- 2) 栗原宏: 医師の身だしなみに関する研究-患者視点と医学生視点の比較・検討-. 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科博士論文. (未公刊). 2014.
- 3) 厚生労働省 医療法第 20 条 (internet) :  
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/06/s0608-11/2f.html>